

あたたかい交流がいっぱい



障害者福祉センター

すばるのメンバーが楽しみにしているのが、本やCDを借りに図書館に行ったり、スーパーへ買い物に出かけたりする月2回の外出と、年3回企画される電車での遠出です。これらの外出は、さまざまな場面で自己決定をしていく訓練であり、また社会見学でもあります。その際、センターの職員と共に一対一の介助につくのが外出介助ボランティア。現在15人が登録しており、メンバーが外に出る手伝いをしています。

外出介助 ボランティア



図書館で一緒に本選び

その一人である浜口勝子さん(写真左)は、このボランティアを始めて2年半になります。浜口さんは「外に出るので安全面には気を使います。でも、皆さん本当にまじめで、私の方が教わることが多いです。喜んでこのボランティアをしています」と、楽しそうに語られました。

音訳ボランティアリヴィエールは、活字をテープに音訳し、視覚障害者や高齢者に届ける活動を続けて16年になります。現在メンバーは12人。町広報紙、社協だより、新聞コラムなどをテープに吹き込み、定期的に利用者へ発送しています。また、利用者の希望するものを対面朗読することもあります。

音訳ボランティア リヴィエール

メンバーの遠藤佳代子さん(写真左)と豊増浩美さん(写真右)は、6年前、音訳ボランティア養成講座を受講後、リヴィエールに入会しました。「音読が好きで、ボランティアにも興味がありました。利用者と直接会う機会はあまりありませんが、どこかで誰かが聞いてくれていると思うことが励みになっています。目の不自由な方で、私達の活動を知らない人がまだおられると思います。そういった方に私達のことを知っていただき、利用して欲しいです」と話されました。



音訳したテープをダビングするお二人

クッキー作りに励むすばるの人達

▼心のこもった手作り品
クッキー(上)、木工製品(左下)、
絵ハガキ(右下)



今年4月、「障害者福祉センター」がゆうあいセンターの敷地内にオープンしました。このセンターは、障害者をもつ人達の交流の場として、また、障害のある人もない人もふれあい、共に支えあうことを目的に誕生した施設です。
今回は、オープンから5カ月が経ち、多くの人達が利用する障害者福祉センターを訪ねました。そこには利用者の方々の笑顔があり、職員やボランティアの人達とあたたかいふれあいがありました。

光あふれる快適な施設

センターは鉄骨平屋建てで、内装には木がふんだんに使われ、明るく快適な空間が広がっています。

その運営は、町より委託された民間の福祉団体「猪名川町社会福祉協議会(略称・社協)」が行い、現在、正規職員と嘱託職員合わせて12人が勤務しています。社協は発足からまもなく50年目を迎え、町の福祉活動に長年貢献しています。

「障害者福祉センター」は、町の福祉サービスの拠点となる施設です。入浴・給食・介護などのサービスを行う障害者デイサービスと、収益事業を提供して自立を図ることを目的とした、小規模通所授産施設「希望の家すばる」の事業を中心に、地域の福祉活動に取り組んでいます。

誰もがいきいきと暮らせるまちづくり

センターの設計時に利用者の側と設計士が話し合い、その結果、どの部屋にも障害者に配慮された工夫がなされました。食堂には利用者の使いやすい、いろいろな高さのバリアフリーテーブル、生活訓練室には昇降式調理台、浴室には身体移動に便利なストレッチャーや寝台浴槽、トイレは寝た状態で使用できる高床式や、車椅子対応やシャワー室付きなど様々なタイプが設置されています。



▲最新設備の寝台浴槽

新しいセンターは、障害者仲間とともに自立をめざす「希望の家すばる」は、現在通所者12人。すばるといっても地域の一員として、一人ひとりが人としての尊厳を保ちながら、日常生活を送るための充実した設備を備えています。

仲間とともに自立をめざす 「希望の家すばる」

今年、発足10年目を迎える「希望の家すばる」は、現在通所者12人。すばるといっても地域の一員として、一人ひとりが人としての尊厳を保ちながら、日常生活を送るための充実した設備を備えています。

福祉は with の精神で

センター係長 東田政信さんの話

福祉はwith(共に)の精神が大切です。障害のみに焦点をあてるのではなく、一人の人間対人間として向き合い、時間を共に過ごすことでお互いが理解し合えるようになっていくのです。

人と人との絆をつくっていくのが福祉。猪名川町は都会に比べると、日常生活に不便な点もありますが、人の顔がよく見えて他人との絆をつくりやすい環境であるとも言えます。しかし、まだまだそれが活かされていいるとは言えません。

障害をもつということは、「生きづらさ」を抱えているということです。障害者を見かけたら、道路の段差など障害者を取り巻く環境に目を向けてください。そして、障害者のことを正しく理解して欲しいと思います。

みんなが支え合うことで、誰もがいきいきと生活できる町をつくることのできるのです。



編集後記



センターは、清潔感の中にぬくもりがあり、とても居心地のよい所でした。すばらしい最新設備に思わず感嘆の声をあげる一方、その設備を利用する人の日常生活での不自由さについて考えました。

現在障害のない人も、いつ病気やけがで介助が必要になるか分かりません。福祉は、今障害を持っていない人だけのものではないと改めて感じました。みんなが支えあって生きていきたいものです。

【いながわ特派員】

人々が支えあうボランティアの心が、将来の福祉をより充実したものに変えていくものだと思います。

センターには、ボランティア活動の拠点という役割もあります。音訳・手話・要約筆記・点訳・散髪・調理・パソコン指導の7グループと、外出介助など個人ボランティアがあり、合わせて約200人の人達がボランティアに登録しています。しかし、まだ人手が足りないのが現状です。9月には音訳講座が開かれるなど、センターではボランティア養成講座を随時開催しています。

センターには、ボランティア活動の拠点という役割もあります。音訳・手話・要約筆記・点訳・散髪・調理・パソコン指導の7グループと、外出介助など個人ボランティアがあり、合わせて約200人の人達がボランティアに登録しています。しかし、まだ人手が足りないのが現状です。9月には音訳講座が開かれるなど、センターではボランティア養成講座を随時開催しています。

心をつなぐボランティア